日文教育資料［ 道徳 ］

どうとくのひろば

No. 33

こころのひろば

平和への感謝と未来を考えるための一歩となるために
［西川 明徳］…… 2

特別寄稿

インクルーシブ教育における指導の工夫と、デジタル教科書やICT 機器の活用法
［山本 芳弘］…… 6

見てわかる！ 道徳
「思いやり、感謝」（中学校）
「社会参画、公共の精神」（中学校）
［越智 貢、上村 崇、奥田 秀巳］…… 8

実践事例【中学校 1 年】
伝統芸能を通じて郷土愛とは何かを考える
［松隈 久美子、島 恒生］……10

こんなコト、聞いてみました！
授業中の発問の工夫やテクニックは？
［山中 太］……14

地球の仲間からのメッセージ
カバ
［長瀬 健二郎］……15

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報 詳しくはWebへ！
日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

こころのひろば

西川 明徳（にしかわ あきのり）

Profile

人道の港 敦賀ムゼウム　館長

敦賀ムゼウムの立ち上げにも関わり、現在もユダヤ難民やポーランド孤児に関する資料集めに奔走している。また、ユダヤ難民だった方やその家族との交流も行っている。

【人道の港 敦賀ムゼウム】
https://tsuruga-museum.jp/

平和への感謝と未来を考えるための一歩となるために

関連する SDGs 目標

杉原千畝（すぎはらちうね）の「命のビザ」で救われたユダヤ難民の方々は、日本でどのように過ごしたのでしょうか。ユダヤ難民上陸の地、福井県敦賀市に建った「人道の港 敦賀ムゼウム」では、当時の資料や市民の声を集めた展示から、その一端を知ることができます。

シベリア鉄道を経由して、ウラジオストクからの船が到着するのが敦賀港。1920 年代にロシア革命によって家族を失ったポーランド孤児を受け入れ、1940 年代には杉原千畝が発給した「命のビザ」を持ったユダヤ難民が上陸。敦賀港には国際港ゆえの歴史があります。

敦賀ムゼウムの成り立ちについて教えてください。

そもそもの成り立ちは、鉄道関係のイベントの一環として、敦賀港の歴史について紹介するパネル展でした。ポーランド孤児やユダヤ難民の方々がやってきた当時、敦賀でどういうことがあったのかを地元の歴史研究家が調査されていて、それを市民の皆さんに知ってもらいたいというのが目的でした。2006 年に行われたそのパネル展が好評で、期間限定で終わるのではなく常設の展示にすることとなり、2008 年に資料館として「人道の港 敦賀ムゼウム」（「ムゼウム」は、ポーランド語で資料館のこと）が誕生しました。市が先導したわけではなく、地元の方々が貴重な歴史を埋もれないようにしようと、聞き取り調査を行ったものをまとめた展示です。だからこそ、移転リニューアルした現在も、その市民証言は主要な展示となっています。

左／「人道の港 敦賀ムゼウム」外観。大正～昭和初期にあった建物群を復元した外観で、2020 年 11 月にリニューアルオープン。
右／大正時代の敦賀港全景（敦賀市立博物館所蔵）。

地元の方は敦賀港の歴史をどのように感じているのでしょうか？

敦賀ムゼウムが誕生して、どのような施設なのかが周知されるまでは、市民にとってポーランド孤児の受け入れやユダヤ難民の上陸といった歴史はあまり知られておらず、知る人ぞ知るという内容でした。敦賀ムゼウムの存在により、こんな歴史があって、その舞台が敦賀だったとあらためて知っていただくことで、誇りに思っているという方も増えたと思います。

特に、地元の子どもたちや若い世代は学校で勉強していますし、校外学習などで実際に訪れてくれることも多くなりました。そこから家族や周囲にも伝わり、地元の貴重な歴史であると広く認識されることにつながっていると思います。

人道という面だけでなく、国際港としても発展してきた敦賀港の歴史については敦賀市立博物館の展示資料や敦賀赤レンガ倉庫にあるジオラマなどでも知ることができます。敦賀ムゼウム単体ではなく、他の施設と組み合わせて、敦賀港の歴史を知ってもらえればと思います。

ユダヤ難民が上陸した当時のことについて教えてください。

敦賀ムゼウムが建っているあたりに旧港があり、ユダヤ難民もここから上陸しました。当時の写真や資料を見ると、港として栄えていたことがわかります。ロシアのウラジオストクと航路が結ばれていたこともあって、外国人の往来が盛んだったので、町の中を外国人が歩いているということは違和感なく受け入れられていたのではないかと思います。

ユダヤ難民たちはウラジオストクから船に乗って敦賀に上陸し、そこから神戸や横浜などへ移動したので、実は敦賀での滞在は長くはありません。しかし、その間に敦賀の人たちがどのようにユダヤ難民に接し

右／敦賀ムゼウムの目の前が、ユダヤ難民の上陸地点。
下／リンゴを提供したエピソードを描いたプレートが。

大きくスペースをとって市民証言を展示。

市民証言にもある、換金されたユダヤ難民の時計。（人道の港 敦賀ムゼウム提供）

ウラジオストクと敦賀間の難民輸送業務を担った大迫辰雄（おおさこたつお）氏へ感謝の気持ちとして手渡された写真が収められたアルバム。（人道の港 敦賀ムゼウム提供）

ていたのかは、当時を覚えている方々の証言によって見えてきます。少年がリンゴなどの果物を無償で提供したという話や、銭湯を解放した、ユダヤ難民たちの時計をお金に替えてあげた、という心温まるエピソードが印象的です。また、それだけでなく、ユダヤ人が敦賀港に上陸すると聞いて興味をもって港に見に行ったという話や、敦賀駅がユダヤ人であふれていた、真っ赤な服や動物の襟巻に驚いた、というようなありのままの証言もあります。必ずしも美談ばかりではないのですが、それぞれの立場や思いで行動したり、日常の一端として捉えていたりしたということでしょう。

実際に、敦賀港に上陸した方から、もらったリンゴが甘くておいしかった、日本の人たちは優しかった、という感謝の言葉をいただいたこともあります。日本に来るまで緊迫した状態が続いたせいか、到着したときにはとても安心したそうです。敦賀の人たちそれぞれができることをしてくれたことで、ユダヤ難民にとって敦賀や日本がとても大切な場所になったんだと思います。ユダヤ難民たちは、お子さんやお孫さんにも敦賀のことを語っていて、それを聞いて敦賀ムゼウムを訪れたという２世、３世の方もいます。

子どもたちは展示を見て どう思っているのでしょうか？

大人なのか子どもなのか、知識があるかないかで展示を見る方の捉え方も変わってきます。ただ、さまざまな意見が散見される、ありのままの市民証言を展示することに大きな意味があると考えています。子どもたちにはあえて何も言いませんが、中にはしっかりと感じ取っている子どももいるかもしれませんね。中学生ぐらいになると深く理解できるようになってくるので、自分で考える入口にしてもらうことが大事だと思います。

杉原さんの行動に対して感動した、杉原さんや敦賀の人たちの善行を自分たちの行いにつなげていきたいという感想もよくいただきます。そこにプラスして、杉原さんの「命のビザ」を持った難民たちが実際に来たのはここだったんだ、という実感をもってほしいですね。ここは杉原千畝記念館ではなく“敦賀ムゼウム”であるということの意味、その史実を学んでもらうことによって、あらためていろいろなことを考えてもらうというのが重要なのです。

そして、ウクライナ侵攻が始まってからは、訪れる方々の見方が変わってきました。ウクライナの問題が起こる前は、過去のことからどう学ぶのかという視点だったのが、侵攻以降はウクライナに関連した感想が増えてきました。ポーランド孤児も同様にロシアとの関係性から起こった問題であり、ユダヤ難民もまた国を追われた人たちの逃避行です。そういうことが現代でも起こり得るんだということを実感するようになったということでしょう。

ポーランド孤児はもちろん、ユダヤ難民の中でもポーランド国籍の方が全体の７～８割を占めていたということもあって、敦賀市はポーランドとの縁が深く、2021 年に開催された東京オリンピック・パラリンピックではポーランドのホストタウンに登録するなど、日常的に親交もあります。ウクライナからの避難民を受け入れているポーランドを応援しようと、支援金を集める活動もしています（2023 年３月に一旦受付終了予定）。そのような縁も含めて、敦賀ムゼウムの内容を今見てもらうということには意義があると思っています。

ユダヤ難民が上陸して敦賀駅へと向かった経路を足跡のピクトグラムで紹介。

来館者のメッセージが貼られたボード。世代も言葉もさまざまで、最近はウクライナの文字が多い。

子どもたちに 伝えていきたいことは？

敦賀ムゼウムで紹介していることを通して、今自分たちがいかに平和な生活をしているのかということに感謝の気持ちをもってほしいですね。命の大切さや平和の尊さについては普段はあまり意識しないかもしれません、ウクライナの例もありますし、世界でこれから先何が起こるかわかりません。自分たちが置かれている境遇のありがたさを知り、家族や周りの人たちへの感謝の気持ちにつなげてほしいです。渡航してきた難民に対して、当時の世界情勢の中で敦賀、日本が果たした役割を踏まえ、これからのことを考えていってほしいと思います。

敦賀でこうした事実があったということ、そうした行為を受けた方々が今でも忘れずにいて、敦賀や日本に感謝の気持ちを伝えてくれているということ。今自分が同じ立場になったら「何ができるか？」「何をするか？」を考える一つのきっかけやヒントになればいいと思っています。

日本文教出版『小学道徳　生きる力　6』には「杉原千畝－大勢の人の命を守った外交官－」、コラム「『命のビザ』で、今もつながる多くの命」を、『中学道徳　あすを生きる　3』には「命のトランジットビザ」、コラム「ユダヤ人の悲劇」を掲載しています。

特別寄稿

インクルーシブ教育における指導の工夫と、デジタル教科書やICT機器の活用法

大阪府大阪市立三国小学校教頭　山本 芳弘

1 インクルーシブ教育を進めるにあたって

「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」によると、配慮を要する児童に対する道徳科の指導や評価について、113 ページに以下のような記述があります（一部抜粋）。

- 発達障害等のある児童に対する指導や評価を行う上では、それぞれの学習の過程で考えられる「困難さの状態」をしっかりと把握した上で必要な配慮が求められる。
- 学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要である。
- 評価を行うに当たっても、困難さの状況ごとの配慮を踏まえることが必要である。
- 一人一人の障害により学習上の困難さの状況をしっかりと踏まえた上で行い、評価することが重要である。

インクルーシブ教育を進めるうえでデジタル教科書や ICT 機器を活用するにしても、配慮を要する児童を含めたすべての児童が「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」学習を進めるうえでの困難さを補うために活用していくことが大前提だということです。

通常の学級で配慮を要する児童と共に授業をするにあたっては、当該児童の困難について知っておかないと授業作りは難しいことから、授業までの間に当該児童の「個別の指導計画」の内容や、普段の授業の様子について把握し、配慮を要する児童への「合理的配慮」（当該児童が学習内容や授業の状況などをわかるようにする工夫）を進めていきましょう。また、授業の「ユニバーサルデザイン」（当該児童を含めた学級の児童全員がわかるようにする工夫）も整えておくとよいですね。

2 想定される困難さに対するデジタル教材・ICT 機器の活用例

○教材文の内容把握が困難な場合の工夫

児童が自分で教材を読むときに、読めない言葉があるとそれだけでつまずいてしまいます。デジタル教科書で教材文の漢字にふりがなを打つと、読み聞かせの際に内容把握がスムーズになります。場合によっては、会話文に誰の発言かわかるようにしたり、感情を表す顔絵を描き込んだりする工夫をしておくことで、そのときの登場人物の気持ちを捉えやすくなります。

デジタル教科書で教材文を網掛けしながら教師が読み聞かせをすることで、教材文の文字を追うことができ、内容を把握しやすくなります。また、朗読速度の調整をすることで、児童の理解に合わせた読み聞かせにできるので、学ぶ環境に安心感を与えることができます。

教材文の内容を振り返ったり、問題となる場面の状況を把握したりするとき、あるいは指導者の発問のときなどに、プレゼンテーションソフトを活用して物語のあらすじをまとめたスライドを大型モニターに映し出して説明することもできます。状況に合わせてアニメーション機能を活用したり、画面に注目させて話をしたり、ゆっくりはっきりした話し方で説明したりすることで、児童は集中して話を聞くことができます。しかし、児童によっては、画面が変化することにより、変化前の状況を忘れてしまうケースがありますので、注意が必要です。

○指導者の発問の理解が困難な場合の工夫

登場人物の心情や行動の意図を考えさせる際には、発問するとき、大型モニターや児童の端末に人物の挿絵を表示するようにすることで、誰の思いを考えているのかがわかるようにするとよいです。これは、複数の登場人物の心情や行動の意図を考えさせたいときには有効です。

○自分の意見の発表・表現が困難な場合の工夫

これまでの授業は、道徳科に限らず、どの教科・領域においても、挙手して発表する児童の意見によって進められてくることが多くありました。しかし、自分の意見がなかなか発表できない場合は、児童の端末でキーボード入力をして文字にすることで意見表明したり、それらを端末の音声読み上げ機能で発表したりすることも考えられます。また、心情メーターのような学習ツールを用いて、自分の賛否などの意見や２色の割合から登場人物の心の揺れを表現することもできます。

○友達の考えを聞くことが困難な場合の工夫

ほかの児童と同じ教室内で一緒に授業を受けられる場合は、「発表者の顔を見て話を聞く」「配慮を要する児童の方を見ながら話をする」といったことを普段から進めることが大切ですが、例えば同じ教室で一緒に授業を受けることができない児童が在籍している場合は、オンライン会議システムを使って画面越しにコミュニケーションをとることもできます。また、事情によってはチャット欄を活用してのやり取りも工夫できるかもしれません。

○道徳ノートを書くことが困難な場合の工夫

児童が道徳ノートに考えを書きやすくするために、例えば発問の文章表現を易しくしたり、番号やふりがなを打ったりしたものを用意し、書く順番や内容をわかりやすくしておくと記入しやすくなります。

≪道徳ノートの発問例≫

道徳ノート（配慮を要する児童用）	道徳ノート（ほかの児童用）
①真由とさくらが、またなかよくなれたのは、なぜでしょう。	■二人がわかり合うことができたのは、なぜでしょう。
②友達のすてきな考えを、黒板を見て書きましょう。	■友達の考え
③あなたが、今日の学習で気づいたことや、わかったことを書きましょう。	■あなたが、今日の学習で気づいたことや、わかったことを書きましょう。

また、道徳ノートを書くときに、自分で考えをまとめたり書いたりするのが苦手な児童に対しては、個別で聞き取りをし、やり取りした内容を指導者がまとめ、そのまとめた内容を指導者が書き、それを手本として書けるようにするのも方法の一つです。書くことが苦手な場合は、端末でキーボード入力をしてもよいと思います。ただ、指導者の提示したことをそのまま書くだけになってしまうこともあるので、書くことにこだわらず、指導者とのやり取りの中で学びにつながる部分を把握することで評価に生かすことが大切です。

○板書の記録

板書はあまり文字が多すぎるとわかりにくくなるので、端的にまとめて書くこと、教材の登場人物や場面の挿絵を掲示し、板書１枚で１時間の授業の流れがわかるようにしていきます。

授業後の板書を端末のカメラで撮影し、学級のドライブなどに保存しておくと、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を進める際に、道徳科の学習を要とし、学びを振り返るための参考にすることができます。

3 おわりに

「ICT 機器を活用した授業」と聞くと、何となく子どもたちが主体的に学んでいるような、そんな見た目にすることができる場合があります。しかし、目的や使い方を誤ると、「活動あって学び無し」の状態になってしまい、結局この授業で児童はどんな新たな学び・気づきがあったのかよくわからない状態になってしまうかもしれません。道徳科の目標はあくまで「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」ですので、ICT を活用することが目的にならないよう気をつけたいものですね。

とはいえ、ICT をうまく活用することができれば、配慮を要する児童はもちろん、どの児童にとっても、「主体的に学ぶこと」「学習の効果を高めること」「障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導に効果を発揮すること」といったことへの効果は期待できると思います。そのうえで、インクルーシブ教育の観点から「共に学ぶこと」を意識しながら、授業作りを進めていくことが大切です。

第20回

見てわかる！道徳

道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。
それらは密接に関わり合い、また競合する場合もあります。
ここでは、内容項目間の関係をわかりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

今回のテーマ

「思いやり、感謝」（中学校）
「社会参画、公共の精神」（中学校）

監修：広島大学名誉教授　越智 貢
共著：福山平成大学教授　上村 崇
北海道教育大学准教授　奥田 秀巳

公共の精神とは？

公共放送、公共施設、そして地方公共団体など、「公共」は私たちの身近にある言葉です。では、「公共の精神」はどうでしょうか。これをわかりにくいと感じる人は少なくないかもしれません。ここでは「公共の精神」の意味や役割を、思いやりの観点から探ってみたいと思います。

痛みや苦しみに共感する力

私たちは痛みを感じている人や苦しんでいる人を見たとき、その人に声をかけたり手を差し伸べたりすることがあります。私たちのこうした自発的な行動には「思いやり」という心のメカニズムが関係しています。私たちには、他者が感じている痛みや苦しみや悲しみを自分のことのように共感する力が備わっているのです。けがをして痛そうな他者の様子を見ると、自分まで痛みを感じるような気持ちになるのはそのためです。その際、誰に頼まれたわけでもなく何かをしてあげたくなるのは、このような思いやりのメカニズムが働いているからにほかなりません。

この思いやりの心に反応して、私たちに、自然と「感謝」の気持ちが生じてくることも重要です。自分の痛みや苦しみ、悲しみに共感して手を差し伸べてくれた人やじっと見守ってくれていた人に対して、私たちは感謝の気持ちを抱きます。さらに、感謝の気持ちを抱いた人は、自分と同じように痛みや苦しみを抱えたり、悲しんだりしている人たちに対して思いやりをもって接することの大切さを学びます。思いやりの心から行動した経験や、感謝の気持ちを抱いた経験は、痛みや苦しみを抱えたり、悲しんだりしている人たちに関心の目を向けるとともに、そうした人々に対して手を差し伸べる態度を育むのです。

思いやりの弱点

思いやりと感謝の気持ちは、互いに関心をもち、助け合う社会を形成するうえで必要不可欠です。私たちが思いやりと感謝の気持ちを抱いてあらゆる人と接することができれば、誰もが互いに助け合うことのできる、理想の社会が実現するでしょう。

しかし、実際には、私たちの思いやりには限界があります。例えば、思いやりが深いとされる人でも、大きな不幸に見舞われたとき、いつもと同じ思いやりを示すのは難しいでしょう。また、私たちが、見知らぬ他者よりも、自分や身近な人を優先しがちであることを忘れてはなりません。身近な人には思いやりを示す人が異なる文化や価値観をもつ人々に対しては無関心であったり、それどころか嫌悪の感情を抱いたりすることさえないではありません。

公共の精神と共に苦しむ気持ち

では、どうすれば、よりよい社会を実現することができるのでしょうか。そのよりどころの一つが公共の精神です。（※）

公共の精神は、社会の利益を追求していく心構えを意味しています。しかし、今日の社会が種々の多様性を含む社会であることを考えれば、そこに根差す公共の精神も多様な他者への視点を欠いては成立しないと言わざるを得ません。

私たちが暮らす社会は親しい人や、同じ文化や価値観を共有する人々だけで構成されているわけではありません。私たちは仲のよくない人や、文化や価値観が異なる人々とも協力して社会生活を営まなくてはならないのです。グローバル化と多様化が進む今日の社会ではなおさらです。

無論、異なる文化や価値観に私たち自身が同化する必要はありません。しかし、そうした文化や価値観をもつ人々が苦しんでいるときに、私たちが手を差し伸べることもせず無関心でいることは、公共の精神に反する態度だと言うべきでしょう。公共の精神は、個人的な好悪の感情を離れて、社会全体の利益を考慮することを促すからです。

このように、よりよい社会の形成に向けて他者と協力して活動しようとする社会参画や社会連帯のためには、思いやりと感謝の気持ち以上のものが必要です。先に述べたように、思いやりには、仲間内の連帯を深めるにとどまって、自分たちと関わりのない他者を排除してしまう弱点があるからです。その弱点を克服し、よりよい社会を形成していくためには、「公共の精神」に基づいて、社会の成員全体へと関心を払うことが何より重要であるゆえんです。

（※ 思いやりの弱点を補うのは「公共の精神」だけではありません。「正義」も同じ働きをすることを忘れるべきではありません。）

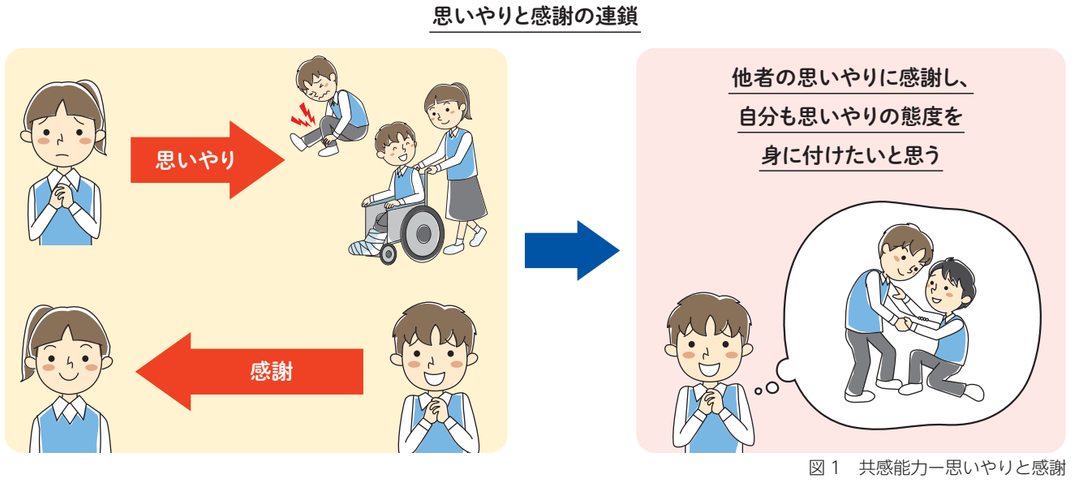

図１　共感能力ー思いやりと感謝

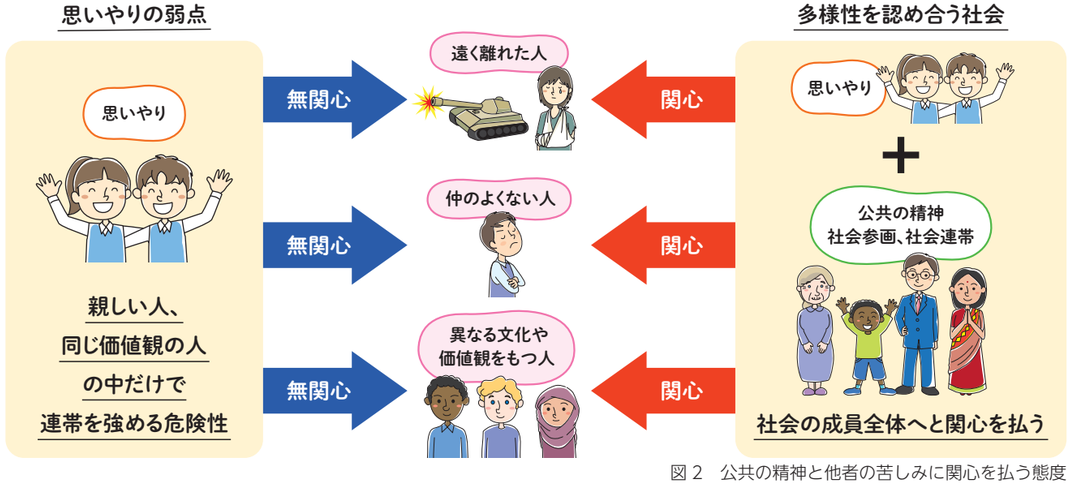

図２　公共の精神と他者の苦しみに関心を払う態度

実践事例 中学校 1年

伝統芸能を通じて郷土愛とは何かを考える

兵庫県神戸市立井吹台中学校教諭　松隈 久美子

教材名	震災を乗り越えて―復活した郷土芸能―（『中学道徳　あすを生きる　1』日本文教出版）
内容項目	C「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」
主題名	郷土芸能を伝える
ねらい	郷土によって育まれてきた伝統と文化のよさを理解し、郷土への誇りや愛着をもち、郷土に対して主体的に関わろうとする実践意欲を育む。
教材のあらすじ	津波被害を受けた地区の中学生たちが、地域の方の協力を得ながら、手作りで郷土芸能を復活させようと奮闘する姿を描いている。

① ねらいとする価値と生徒の実態について

本教材の内容項目は、C「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」である。「郷土によって育まれてきた伝統と文化のよさを理解し、郷土への誇りや愛着をもち、郷土に対して主体的に関わろうとする実践意欲を育む。」ことを本学習のねらいとした。

しかし、中学１年生では、郷土芸能そのものへの理解が乏しく、まずは興味をもたせるところから始める必要がある。

本校は設立 30 年。ニュータウンということもあり、身近な地域で伝統芸能に触れることがなく、コロナ禍のために地域でのお祭りでさえ、この数年は開催されていない。地域行事も制限される生活の中、なかなか前向きに生活を送ることが難しい生徒たちであるが、郷土を愛する気持ちや、自分たちが知らない郷土芸能を知ろうとする気持ちが大切であることを知ってほしい。また、本教材を通して、地域との関わりや地域への興味が大切であり、今後の人生へつながっていくということにも気づかせたい。

② 教材の活用と工夫について

今までの教材選びは、教科書を中心にしてはいたが、教師自身が苦手だと感じた教材は、同じ内容項目の違う教材へと変更していた。誰しも得意、不得意があり、このような方法はよく耳にする。しかし今年度は、これまで苦手としていた教材にも挑戦するという方針のもと、ローテーション道徳での授業をスタートし、現在に至っている。

そこで、使用しにくいと感じた教材をどのように工夫して授業を行うかが鍵となってくる。今回の教材は、そんな教材の一つであった。

東日本大震災による津波で、甚大な被害を受けた岩手県宮古市津軽石地区。この地区に受け継がれてきた郷土芸能は、道具や練習場所の流出によって継承の危機を迎えた。この危機に、教材に登場する津軽石中学校の３年生は、地域の方に協力してもらいながら、自分たちの手で後輩へ伝える活動を始める。

まず、この震災が起きた年、本校の生徒たちはまだ２歳であったため、授業では最初に映像を見せたり、話を聞かせたりしながら、実際に起こったことを伝えなければならない。

そして、「自分たちの郷土芸能を自分たちの手で後輩に伝えたい。」という津軽石中学校の生徒たちの思いに触れることで、郷土や地域を愛することや、郷土のために自分ができることを考えさせたい。しかし、地域の中に郷土芸能があまり存在せず、地域との関係が薄まっているコロナ禍にある生徒にどう考えさせていくか。どれだけ身近なものにさせられるか。それが授業をする者として大切であると感じた。

③ 伝統芸能や地域を知る資料について

授業の導入に、伝統芸能や岩手県という地域について知る必要があると考え、「伝統芸能って、どんなものを知っていますか？」という問いを投げかけた。すると、３つの伝統芸能が出てきたクラスもあれば、１つしか出てこなかったクラスもあり、認知の差を感じた。

まず伝統芸能に関して、パワーポイントの説明資料では、「能」「歌舞伎」「阿波踊り」の写真や動画を用意しておいた。また、生徒たちが身近に感じるように、歌舞伎の世界で活躍する芸能人の紹介をした。俳優の紹介をすると、「この人、歌舞伎の人だったのか。」という驚きの声も聞かれ、興味が出てくる様子がわかった。その中で、一部の芸能では世襲制などを採用し脈々と受け継がれてきていることにも触れておいた。

岩手県という地域に関しては、地図を見せて紹介し、津波の被害が大きかった東北の地域であることに触れた。神戸市は、阪神淡路大震災が起こったことを教訓に、どこの小・中学校においても震災学習を行っている。生徒たちが小学生時代から震災学習をしているであろうということを踏まえて、阪神淡路大震災にも触れ、被害の大きさだけでなく、復興までにどれだけの年数がかかるものなのかも考えさせた。

また、東北の震災から３年が経ったときに、教師自ら被災地の仙台に行ったこと、そのときの現地はまだ復興したとはいえず、復興のために地域の人たちがさまざまな方法で前に進もうとしていたことを、当時もらった新聞などとあわせて紹介し、イメージを膨らませるきっかけとした。

以上のように、芸能、地域の実態をより深く知ったうえで、教材の内容に入った。この工夫により、教材を考える際に深みが増したと感じる。

教材の流れ	主人公の心の動き	発問	発問の意図
東日本大震災の被害で、津軽石地区の郷土芸能が途絶えてしまう危機を迎えた。	壊滅的な被害で、これからの生活はどうなるのだろうか。		
生徒会長の長谷川さんたちは文化祭での郷土芸能発表を復活させたいと考えた。	地域の人のためにも、後輩たちのためにも郷土芸能を復活させたい。	○長谷川さんや長洞くんは、どうして郷土芸能を復活させたかったのだろう。	芸能を途絶えさせたくないという思いの根源にある郷土愛を考えさせる。
生徒たちは写真や地域の人のアドバイスをもとに道具を一から作り始め、練習に励んだ。	自分たちでできるのか。何年も使えるようにしっかりしたものを作りたい。		
文化祭当日、郷土芸能発表に地域の人たちから大きな拍手が沸き起こった。	よかった。頑張れた。やってよかった。		
後輩からは来年度への決意が、地域の人たちからは称賛や感謝の声が届いた。	後輩にはこれからも郷土芸能を自分たちの手で伝えていってほしい。	◎長洞くんが、後輩たちに「郷土芸能を自分たちの手で伝えていってほしい」のはどうしてだろう。	郷土芸能を伝えることができるのは、自分たち「郷土に生きる人」であることに気づかせる。
		○あなたの住んでいる地域には、どんな郷土芸能があるだろうか。それにはどんな意味があるのだろう。	自分が住む地域の郷土芸能に目を向けさせ、地域で長年にわたって多くの人々が伝承してきたことについて理解と関心を深めさせる。

畿央大学大学院教授 島 恒生 先生から

Cの視点「主として集団や社会との関わりに関すること」の内容項目は、「集団の中に、自分もいる」と捉えると考えやすくなります。

郷土の伝統や文化、郷土のよさは、多くの人たちの強い思いによって大切にされてきたものです。伝統や文化、さらに郷土の中には必ず人がいて、その人々が引き継ぎ、発展させてきたものなのです。普段は当たり前すぎて見過ごしがちな伝統や文化、郷土のよさは、誰かが引き継ぎ発展させていくでしょう。その誰かの一人が、自分なのです。なぜなら、自分はその郷土の一員だからです。この教材を通して、それを考え合う授業になることが望まれます。

実践事例
中学校
1年

	学習活動（◎中心発問、〇基本発問、・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点
導入	1 身近な伝統芸能や郷土芸能の画像を見る。 〇どんな伝統芸能を知っているか。 ・能　・歌舞伎　・阿波踊り	◇画像で見たもの以外に知っているものはあるか、身近にある伝統芸能や郷土芸能について想起させる。
	2 東日本大震災による津波で、甚大な被害を受けた岩手県宮古市津軽石地区について知る。	◇画像で被害の大きさを理解させる。より身近なものにするため、阪神淡路大震災にも触れる。 ◇教材提示とともに、教師が東北の震災3年後に訪れたときの仙台の復興状況について資料で説明する。
展開	3 教材「震災を乗り越えて―復活した郷土芸能―」を読み、考える。 〇長谷川さんや長洞くんは、どうして郷土芸能を復活させたかったのだろう。 ・30年以上も受け継がれてきた大事な伝統を途絶えさせてしまうのが嫌だから。 ・途絶えさせるわけにはいかないから。 ・途絶えさせたら、今までの人たちの努力が無駄になるから。 ・今の1年生にも文化祭での誇らしい気持ちを感じてほしかったから。 ・地域の人たちが喜んでくれた姿が忘れられないから。 ・地域の人たちを元気づけたかったから。 ・津波によって多くのものが失われてしまったから。	◇芸能を途絶えさせたくないという思いの根源にある郷土愛を考えさせる。 問い返し「どうして誇らしい気持ちになれたのだろう。」「地域の人たちはどうして喜んでくれたのだろう。」などと問い、自分たちや地域の人たちにとっての郷土芸能とは何かという視点から、行動の根底にある「郷土愛」について考えさせる。
	◎長洞くんが、後輩たちに「郷土芸能を自分たちの手で伝えていってほしい」のはどうしてだろう。 ・自分たちの地域に伝わる芸能を伝えられるのは自分たちだけだから。 ・これまでも脈々と地域の人たちが継承してきたものだから、これからも継承してほしい。 ・地域を活気づけたいから。 ・多くの人たちが守ってきたものを、郷土に生きる一人として自分たちも守っていきたいから。 ・震災を乗り越えて、ここまでできた自分たちだからこそ、みんなに伝えることのできるものが必ずあると思ったから。	◇4人グループで意見交換をさせ、どのような話し合いになったか、後で聞くと伝えておく。 ◇郷土芸能を伝えることができるのは自分たち「郷土に生きる人」であることに気づかせる。 補助発問「誰がこれから郷土芸能を伝えていくのだろう。」
	〇あなたの住んでいる地域には、どんな郷土芸能があるだろうか。それにはどんな意味があるのだろう。 ・地域の人たちが郷土芸能のことを知り、もっと愛していけば、誰かが必ずつないでくれる。 ・もっと知って、自分もつないでいきたい。 ・いろいろな芸能に触れていきたい。	◇自分が住む地域の郷土芸能に目を向けさせ、地域で長年にわたって多くの人々が伝承してきたことについて理解と関心を深めさせる。教師は事前に調べておく（兵庫県の伝統芸能や伝統工芸品について紹介した）。
終末	4 教師の説話を聞く。 ・兵庫県にある淡路の人形浄瑠璃に触れる。	◇郷土の伝統文化の保存や伝承に関わる厳しい現状の一面、教師の体験談などを話し、授業を終える。

④ 授業展開のために

ストーリーをつかんでいくときには、生徒たちに簡単な質問をしながら行うことを意識した。体験したことがなく、身近な話でもないことから、内容を丁寧に理解させることで、自我関与を深め、郷土を愛する心や引き継いでいく思いを深く考えさせたいと考えたからである。

⑤ 授業後の生徒の考えから見えたもの

授業後、生徒から以下のような感想が寄せられた。

「私は今回の授業を受けて、さまざまな地域のそれぞれの想いが郷土芸能として残っているのだと思いました。自分の地域だからこそ伝えたい想いがあるし、今の自分だからこそ伝えられる想いがあるので、その想いを後世に残していくことが社会の成長につながるのだと思いました。」

「地域の伝統を受け継ぐために自ら行動した津軽石中の人たちがすごいなと思いました。私も兵庫の伝統を知って、もっと好きになりたいです。また、ほかの地域の伝統も知りたいです。」

「今まで伝統について自分から知ったり調べたりすることはなかった。でも、伝統芸能は誰かが受け継いでいるからこそあるものだと知り、もっと知りたいと思った。」

「人任せにしていたら伝統は途絶えてしまうので、日々いろいろなことを体験して学んでいきたいと思いました。」

「伝統的なことをしている人は、大人しかいないと思っていたが、今回の授業を受けて180度考え方が変わった。私もいつかやってみたい。」

正直、「郷土芸能」をテーマにしたこの教材には苦戦した。「この授業で考えさせたいことって、全部本文に書いてあるよね。」という言葉も耳に入った。そのため、道徳ローテーションでこの教材のペアになった若手教員と共に何度も意見交換をし、パワーポイントを作り直した。どうすれば生徒たちが深く考えられるのかを考え続けたことに意味があるのだとあらためて感じた。生徒たちの知りたい学びたいという気持ちが生まれたように、私たちも学び続ける喜びをさまざまな教員と共有していきたい。

畿央大学大学院教授
島 恒生 先生から

「自分の地域だからこそ伝えたい想いがあるし、今の自分だからこそ伝えられる想いがある。」「私も兵庫の伝統を知って、もっと好きになりたいです。また、ほかの地域の伝統も知りたいです。」という生徒の感想は、とても深いものです。松隈先生が、この教材を丁寧に扱い、生徒が主人公にしっかりと自我関与して考えられるようにした成果であると思います。

道徳科はややもすると、教材を読み取らせ、「主人公のようになりましょう」という授業になりがちです。そうではなく、主人公の思いを自分ごととして考え、その思いの奥にある真意をみんなで考え合うからこそ、自分の在り方や生き方を見つめ直すことになるのです。

こんなコト、聞いてみました！

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり、励みになったり。
これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

今回のテーマ

授業中の発問の工夫やテクニックは？

生徒が深く考えたくなる発問８つのパターン

長崎県佐世保市立日野中学校教諭　山中 太

中学校学習指導要領の「道徳科の目標」に、「多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める」という文があります。「道徳科の目標」を達成させるためには、生徒の思考を刺激する発問が大切です。従来の道徳授業では、気持ちを尋ねる発問が多くみられました。基本的に道徳科は、生徒の心を育てる教科ですから、このような発問を行う理由もわかります。しかし、気持ちだけを尋ねる発問では、生徒は深く考えようとはしません。自分を深く見つめ、自分と重ね合わせて考えることなく、教科書の内容を読み取ることに専念することが多くなります。そこで、生徒が思考を刺激されて深く考えたくなる発問とはどのようなものなのか、８つのパターンに分類し、その具体例を紹介していきます。

①関心を高める発問例

・写真を見て、気づいたことを３つ書きましょう。（３つにすることで教材を真剣に見るようになります。）
・(写真の一部を隠して)この部分には何があると思いますか。

②全員を参加させる発問例

・教材中の「○○○○」という言葉に賛成なら「○」、反対なら「×」を書き、その理由も書きましょう。
・この後、Ａさんはどんな人生を送ったと思いますか。「野球を続けた」「野球を辞めた」「メジャーリーグに挑戦した」「その他」から１つを選びましょう。（「その他」を加えることで思考が広がります。）
・教材を読みながら心が動いた部分に線を引きましょう。

③教材の展開を予想させる発問例

・この後、Ａさんは何をしたと思いますか。
・この後、Ｂさんはどうなったと思いますか。
・Ｃさんは何と言ったと思いますか。
・この後どうなったか、物語を考えましょう。

④自分を見つめさせる発問例

・Ａさんが取った行動に賛成ですか、反対ですか。 その理由は何ですか。
・あなたは、Ｂさんにどんなアドバイスをしますか。
・Ｃさんは、今のあなたにどんなアドバイスをしてくれると思いますか。
・Ｄさんにあって、自分にないものは何ですか。
・自分にあって、Ｅさんにないものは何ですか。
・Ｆさんのような人物を好きになれそうですか。

⑤挑発的な発問例（道徳的価値を揺さぶる）

・すべての命は美しいと思いますか。
・うそは絶対についてはいけないのでしょうか。
・友達は、本当に必要なのでしょうか。
・環境問題の解決と経済発展を両方進めることは不可能ではないでしょうか。

⑥意見をつなぐ発問例

・今のＡさんと同じような意見はありませんか。また、ちょっと違う意見の人はいますか。
・今のＢさんの意見に付け加えたい人はいますか。
・今のＣさんの意見をもう少し詳しく説明できる人はいませんか。

⑦周りを意識させる発問例

・Ａさんと同じような行いをしている人は、学級にいませんか。（仲間のよいところを意識させる発問なので、Ａさんがプラスの行いをしている場合のみ）
・この話と同じようなことは身近にありませんか。
・このようなことは、現実にはないのでしょうか。

⑧まとめをさせる発問例

・今日学んだことで、これからの生活に取り入れていけそうなことは何ですか。
・今日の授業に自分なりのタイトルをつけてみましょう。
・Ａさんにメッセージを書いてみましょう。
・この教材は、なぜこんなタイトルにしたのでしょうか。
・登場人物３人の行動を「Ａ」「Ｂ」「Ｃ」でそれぞれ評価してみましょう。その理由も考えてみましょう。
・この教材は何を伝えようとしているのでしょうか。

このような発問パターンを知っておくことで、いろいろな教材に対応できます。生徒の実態をいちばん知っているのが学級担任ですから、このパターンを利用して、発問を生徒の実態に合うように修正や変更をすることが重要であることは言うまでもありません。

地球の仲間からのメッセージ

獣医師、元大阪市天王寺動物園長
長瀬 健二郎

水底を歩くカバ

カバ

動物園の人気者というといろいろといますが、カバも必ずその中に入るでしょう。のんびりと水につかる巨大な体、ガッバァー……と開く大きな口、時折あげるバッバッバァー……と続く雄叫び。これほど人気者になる要素がたくさん詰め込まれている動物は少ないのではないでしょうか。

まず、間違いなく６月４日の各テレビ局のニュースに取り上げられます。この日は６と４がムシと語呂合わせされ、むし歯予防デーなのです。大半の動物園では体調管理のため、いろいろな動物の体に触れることができるよう、日頃から訓練しています。カバではその一環として口を開けさせ、歯のチェックができるようにしている動物園が多く、この日には専用の超特大歯ブラシで歯を磨くデモをするのです。そんな愛嬌あふれる姿が動物園での人気の理由かと思いますが、実はアフリカではライオン以上に恐れられているのがこのカバなのです。地域によっては、野生動物によるヒトの死亡原因の１位になっているそうです。

赤い汗をかくことも知られています。以前はアフリカの厳しい太陽光から皮膚を守るためとされていましたが、近年の研究によると、この汗には蚊が嫌う成分が含まれ、蚊よけの効果があるそうです。

カバの赤い汗

天王寺動物園では、1997 年に日本で初めて水中のカバをガラス越しに見られるプールができました。世界で３番目のものでした。この施設を作った最大の理由は、カバの哺乳風景を見ていただきたいと考えたからです。実は、カバは水中でしか哺乳しません。なぜなら、そこが最も安全な場所だからです。残念ながら、そのほのぼのとした哺乳風景を見ていただくことはまだできていませんが、もう間もなくお見せできるようになることでしょう。

また、多くの人が驚かれるのですが、カバは泳げません。えっ、カバが！！ いつも水の中にいるし、ときどき潜っている姿も映像で見るし……。そうなのです。カバは浮かずに潜るのです。つまり、カバは潜って水底を歩いたり、走ったりして移動します。そして、時に立ち上がったり、水底を蹴って鼻先を水面に出したりして呼吸し、また潜ります。移動する際には、まさに河馬（かば）という字を体現するように、まるでステップを踏んでいるかのように優雅に水底を舞います。英語ではヒポポタマスといいますが、ヒポは馬を、ポタマスは川を意味するラテン語が語源です。天王寺動物園ではそんなダンサーのようなカバの姿をいつでも見ることができます。次の休みにはぜひ天王寺動物園へお出かけください。

島先生と考える!! 道徳セミナーin大阪 開催報告

北沢 和也 先生

島 恒生 先生

多田 義男 先生

2022 年 12 月 11 日（日）、大阪市内で道徳セミナーを対面限定で開催しました。
授業実践・授業解説では、事前に講師の先生方が行った授業実践を動画で視聴。その後、動画を振り返りながら、先生方に授業のポイントについて解説いただきました。
講演では、発達段階や内容の視点を考えることの大切さなど、より深い授業を展開するためのポイントについてお話しいただきました。

参加された先生方の声

- 実際の授業が視聴できたので、授業の流れや子どもの発言の取り上げ方、切り返しなどのイメージがもてました。
- 実際の授業が見られ、さらに解説もしていただけたので、とてもわかりやすかったです。
- 動画も音声がかなりクリアだったので、実際に教室で授業を見ているかのような臨場感がありました。
- 講演はわかりやすく、島先生のお考えを実践に生かせると思いました。

プログラム

授業実践・授業解説 小学校
北沢 和也 先生 滋賀大学教育学部附属小学校教諭
4 年生「よわむし太郎」
【A「善悪の判断、自律、自由と責任」】

授業実践・授業解説 中学校
多田 義男 先生 筑波大学附属中学校教諭
2 年生「失った笑顔を取り戻す」 【C「勤労」】

授業解説・講演
島 恒生 先生 畿央大学大学院教授
「考え、議論する道徳と深い学び」

どうとくのひろば 読者アンケートにご協力ください！

よりよい広報資料をお届けするため、先生のご感想、ご意見を左の QR コードからぜひお聞かせください！

どうとくのひろば No.33
日文教育資料［道徳］
令和5年（2023年）1月31日発行
編集・発行人 佐々木秀樹
発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。
編集協力：株式会社ストア
デザイン：モスリングラフィック
CD33639

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/
大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16 TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14 TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1 TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690